

# 令和5年度 学校マネジメントシート

三重県立伊賀白鳳高等学校

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「力」と「志」を持った職業人を育成し、地域に貢献できる学校 ～地域の学校として、地域の子どもたちを地域で活躍できる人材に育成する学校～
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、判断し、行動する生徒</li> <li>・思いやりの心と規範意識をもち社会に貢献する生徒</li> <li>・専門的な知識・技術を身につけ、未来を切り拓く生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の最も身近にいる大人として、大人の見本を示すことのできる教職員</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 ・学校生活の充実と自己実現への支援（進路・学力保障、資格取得、部活動、ICT機器の活用） 〈保護者〉 ・子どもの成長（基本的な生活習慣、学力、マナー、部活動等）と進路保障 〈地域〉 ・専門的な知識・技術、人間性を身に付けた人材育成 ・専門性を生かした地域と連携した取組	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	〈保護者〉 ・基礎学力の向上 ・資格取得等の専門的な知識技術を生かした進路保障 〈企業等〉 ・企業人、社会人として活躍できる人材育成（基礎学力、専門知識・技術、マナー、コミュニケーション能力等） 〈大学・短大・専門学校〉 ・進学後困らない基礎学力とコミュニケーション能力の定着 〈中学校・小学校・保育園等〉 ・地域の専門高校としての役割 ・系統的なキャリア教育のパートナー 〈地域〉 ・学校の持つ資源（専門知識、技術、人、施設等）の提供 ・地域活性化への貢献 ・防災拠点	〈保護者〉 ・ともに生徒を育てていくための学校教育への理解と協力 ・生徒の健康管理 〈企業等〉 ・インターンシップ、デュアルシステム等の受け入れ ・安定した雇用の継続 〈大学・短大・専門学校〉 ・より高度で専門的な知識・技術等の獲得 ・進路先としての生徒の受け入れ 〈中学校・小学校・保育園等〉 ・基礎学力の定着 ・継続的な指導のための、生徒個々の情報の提供 〈地域〉 ・学校教育への支援
(3) 前年度の学校関係者評価等	・一人一台端末を活用した、魅力ある授業を目指してほしい。 ・就職選択者は貴重な人材である。仕事を辞めずに続けてもらえるとありがたい。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響でコミュニケーション能力の低下が心配である。IT化が進んでも対面でのコミュニケーションは大事である。中学生には高校を、高校生には大学や会社を見に行かせてほしい。 ・「あいさつ・おもいやり・時間厳守」を身につけられる指導を続けてほしい。 ・働きやすい職場環境づくりのために、1つの業務に対して複数人で行える体制を整えたり、役割分担はしつつも周りで協力し合って業務を行えたりすることも重要である。	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の興味・関心や適性に合った進路を選択し、その実現に向けて、社会で求められる基礎学力、専門知識・技術とともに、社会的マナーやコミュニケーション能力を身につけた生徒を育成する。</li> <li>・検定合格や資格取得、部活動における成果等を通して、生徒の自尊感情を高め自信とやる気を引き出し、自己実現に向けて努力する生徒を育成する。</li> <li>・生徒の人権感覚を磨き、相手の立場に立って行動することができる、思いやりの心を育てる。</li> <li>・地域の教育力を活用し、生徒が主体的に活躍することで、生徒自らの自尊感情を高め、地域の活性化に貢献できる生徒を育成する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会の活性化をはかり、教員一人一人の授業力向上に取り組む。</li> <li>・生徒や保護者と積極的にコミュニケーションをとり、複数の教職員が係わりながらきめ細やかな教育相談や支援を行う</li> <li>・総勤務時間の縮減や休暇の取りやすい職場など、働きやすい職場づくりをめざす。</li> <li>・風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導	<p>( )内は令和4年度の数値 ○ICTの活用した授業実践に努める。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人1台端末を活用した授業を実践する教員 100% (ICT機器の活用率：80%)</li> </ul> <p>○学力の定着を図るために、グループワークや発表の機会を積極的に取り入れる。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークや発表の場をすべての教員が実践する。 (実施率65.7%)</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で主体的に考える、表現できている生徒 90% (88.3%)</li> </ul> <p>○基礎学力向上させ、生徒の学習意欲や自信を育むとともに、常に授業改善を実践する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力診断テストにおける国語、数学、英語のGTZが、各学年、C3以上40%以上D2以上75%以上 (1年33.9%、70.3% 2年31.3%、63.0% 3年33.5%、76.3%)</li> </ul> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教員が授業毎に生徒が学習を振り返る機会を設ける。</li> </ul>	<p>教員アンケート (12月実施) 授業時間内で活用57% 課題配信など授業時間外での活用18% 活用させる機会がなかった教員12% 実践できず等13% ※職員に実践例を還流。</p> <p>全教職員、グループワークや発表の場を大切に取組んだ。</p> <p>生徒アンケートより 84.7%</p> <p>1年9月20日実施分より 国英数総合 C3以上38.9% D2以上69.6% 2年9月20日実施分より 国英数総合 C3以上33.3% D2以上77.1% 3年6月7日実施分より 国英数総合 C3以上25.6% D2以上72.1%</p>	

各学科における指導	<p>○各種資格・検定試験の合格率を向上させ、生徒の学習意欲や自信を育み進路実現につなげる。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科で実施する資格・検定等の合格率を設定し、指導の充実を図る。(設定した学科100%)</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検定や資格の合格率を70%以上(59.6% 2月)</li> </ul> <p>○安全教育を徹底する。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習における事故、怪我を0にする。(2件)</li> </ul> <p>○地域や関連産業との連携をすすめる。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域や関連産業との連携した取組を年間5回(5回以上)</li> </ul>	<p>100%</p> <p>53.4%</p> <p>1件</p> <p>具体的取組  <b>【ヒューマンサービス科】</b>  伊賀市社会福祉協議会6回・防犯劇(上野東小学校)1回・花の寄せ植え(みどり第二保育園)1回・壁面構成の贈与会(よさみ保育園)1回・福祉施設職員からの講話1回・関西女子短期大学の教授との連携授業3回・大学見学会(高田短期大学、鈴鹿医療福祉大学)2回  <b>【建築デザイン科】</b>  インターロッキング(和光舗道)1回・現場見学会2回・トマトカレーパッケージデザイン1回・建築士会ガイダンス1回・展示即売会1回・卒業制作展1回ほか 各科多数</p>	
生活指導	<p>○教育活動全般を通じて、授業を大切にし、規範意識や挨拶、言葉遣いの指導を行う。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員から積極的な挨拶を行う。</li> <li>チャイムにより授業を開始する。100%(92.8%)</li> <li>教室では、防寒着を着ないように指導する。100%(92.8%)</li> <li>学校遅刻、授業途中入退室を減らす。(1クラス月平均)(学校遅刻 10.2人【前年比1.1人減】)(授業途中入退室4.4人【前年比1.9人減】)</li> </ul>	<p>100%</p> <p>85%</p> <p>85%</p> <p>10.1人(前年比0.1減)</p> <p>5.8人(前年比1.4人増)</p>	
進路指導	<p>○生徒が将来必要とする力を、各科、各分掌で意識して系統的な取組を実践する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学科と連携した進路相談、面接指導の充実を図る。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「就職・進学について自己実現ができた」3年次生徒95%以上。(98.8%)</li> <li>進路相談シートを活用する生徒 100%(100%)</li> <li>学校斡旋を希望する就職希望者の内定率100%(100%)</li> <li>進学希望者の希望実現100%(100%)</li> </ul>	<p>生徒アンケート回答より 97.1%</p> <p>100%</p> <p>100%</p> <p>100%</p>	

	○学校行事等教育活動に目的を持たせたキャリア教育を実施する。 【活動指標】 ・学年別進路ガイダンスの実施、「キャリアデザインⅡ」の充実 ・全学年でのキャリアパスポートの活用		
人権教育	○人を傷つけない行動をするための生徒の主体的な取組を支援する。 【成果指標】 ・「自分の大切さと共に他の人の大切さを認める力が高まった。」と感じている生徒 80%以上 (93.6%) ・生徒が主体的に取組む学習活動 年3回以上 ・人権面談 年1回	生徒アンケート回答より 95.1% 各年次において実施した人権面談は11月に実施	
部活動	○部活動を通して競技力の向上を図るとともに、人間力の向上を目指す。		
<b>改善課題</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は各教員の取組事例の還流はしたが、一人一台端末のよりよい活用に向け、更なる研究が必要。</li> <li>・基礎学力および資格試験の合格率の向上をはかる必要がある。</li> <li>・カリキュラム変更により、キャリアデザインⅡは今年度で終了。また一人1台端末も導入された結果、キャリア教育・端末活用の取組もLHR時に行わざるをえず、LHRの内容・量が過度なものとなっている。</li> <li>・実習における事故防止に向け、引き続き緊張感をもって取り組まなくてはならない。</li> <li>・感染症流行の影響もあるが、授業途中の入退室が増えているのは課題である。</li> </ul>			

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	○常に授業改善を実践する。 【成果指標】 ・「授業見学シート」の提出 80%以上 (100%)  ○高いコンプライアンス意識を持つ。 【活動指標】 ・コンプライアンス研修 年間3回 ・校外での職員研修に2回以上参加 (のべ126名) 【成果指標】 ・保護者の学校満足度90%以上 (88.8%)	66.7%  3回以上実施したネットによる研修も充実しているので指標から外した。 保護者アンケートより満足度88.8%	
広報活動	○小学生、中学生、地域等への情報発信を積極的に行う。 【成果指標】 ・HP、インスタグラムの更新を年間70件以上、フォロワー900人以上。広報紙年間10回 (96件、650人 10回) ・ケーブルテレビ等での放送回数：20回 (53回) ・中学生の本校への進学希望者数を定員の1.03倍 (1.004倍)	R6.2.16 現在 HP、インスタ更新 70件 970人 広報誌 10回 ケーブルテレビ 40回 後期選抜倍率 1.028倍	
防災・危機管理	○危機管理意識を高める。 【活動指標】 ・防災訓練・避難訓練年間2回 (2回) ・防災講話年間1回 (1回)	実施 実施	
教育相談 特別支援 人権	○教育相談、人権、特別支援の各担当を軸に、各分掌が連携を密にし、適切な対応、指導を行い、学校生活を充実させる。 ○多くの教職員がいることを強みとして、生徒との関わりを深める。 【活動指標】	R6.2 月末 情報交換会 8回 人権教育推進委員会 8回 計16回	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な情報交換を年間12回開催。(10回)</li> <li>人権面談、進路面談を実施する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談できる人がいる割合80%以上 (本校職員：51.8% 本校生徒：76.8% 本校以外：80.4%)</li> </ul>	生徒アンケートより 本校教員 52%、 本校生徒 76.9%、 本校以外 79.1%
働きやすい 職場環境	<p>○チーム「白鳳」として、業務を複数人で行うなど、チームワークを大切にしたい体制を構築する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前の情報共有、資料の事前配布により、会議の回数や会議の時間を減じる。(R4 43回、R3 98回)</li> <li>定時退校日に退校できた教職員の割合 80%以上 (76.4% 12月)</li> <li>計画した日に休養日を設定できた部活動の割合 100% (98.6% 12月)</li> <li>放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合 80% (79.1% 12月)</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1人当たりの月平均時間外労働時間30時間以下 (15.2 1月)</li> <li>月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 (88人 1月)</li> <li>年360時間を超える時間外労働者の人数 0人 (6人 1月)</li> <li>一人当たりの年間休暇取得日数 平均17日以上 (20.0日 1月)</li> </ul>	指標を見直し、回数は数えず。 12月現在 71.2% 12月現在 99.7% 46.6% 放課後の企画委員会・職員会議で計算12月 16.9 79人 12人 17.4日

#### 改善課題

- ・コンプライアンス研修については回数をこなすだけでなく、本校の状況を分析し、よりふさわしい研修を考える必要がある。
- ・設備の経年劣化も生じている。事務と十分な連携をとり防災に向け取り組む必要がある。
- ・本校教員に教育相談ができると答える生徒の割合を高める必要がある。
- ・60分以内で終了した会議の割合が低い。対象とした会議が企画委員会・職員会議に限定したとはいえ、効果的な運用をはからなくてはならない。
- ・定時退校日には「帰ろう」という状況をつくらなくてはならない。

#### 5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の働き方について心配である。定時退校をすすめた結果、持ち帰る仕事が増える、クラブ活動や補習を行おうとする先生のモチベーションとの兼ね合い、が課題になるのではないか。</li> <li>・部活動に参加する生徒が減少してきていると聞いており、心配している。</li> <li>・よりよい進路実現に向け、先輩の話、企業におけるリアルな話を聴ける機会を増やすとよいのではないか。</li> <li>・地域とのつながりという観点では、生徒会が中心となり小中学校と連携した取組がすばらしかった。時間の制約もあるが、小中との交流は今後も続けてもらいたい。</li> <li>・資格取得は大事なポイントである。いろいろな資格にチャレンジできる機会を今後も設ける必要がある。</li> </ul>
-----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・一人一台端末のさらなる活用に向け、適切な校内研修を実施する。</li><li>・基礎学力の向上をはかるため、指標をはかるためのよりよいテストを検討する。</li><li>・よりよい進路実現のため、卒業生を招いた進路ガイダンス等をより充実させる。</li><li>・LHR の効果的な運用を図るため、諸行事を早期に計画立案する。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域への発信、地域との連携は今後も積極的に行う必要がある。特に生徒が活躍している場面を発信できるよう意識する。</li><li>・PC 等を活用した連絡と直接連絡との効果的な運用をはかる。</li><li>・諸行事の早期の計画、より適切な定時退校日の設定により、自己調整をはかる。</li></ul>